

# 小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	18	施策名	生涯学習の推進	
小施策コード	18-2	小施策名	社会教育施設の整備・充実	
小施策 主管課等コード	204000	小施策 主管課等名	生涯学習課	
評価責任者名	川原 善弘		内線番号	7340
評価シート作成者名	山本 尚江		内線番号	7341

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの生涯学習をした」と答えた市民の割合	↑	%	40.6	41.7	33.0	43.9	47.2

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標, ↓：数値を下げていくことを目標とする指標, →：数値を維持することを目標とする指標)

## Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
市民	学習の場（施設）を利用する。
社会教育施設	学習の場（施設）を提供する。
現状と課題	生涯学習の推進のためには、活動場所となる社会教育施設の利便性・安全性の確保が必要であり、老朽化した施設・設備の改修・修繕や新築などの要望に適切に対応する必要がある。
取組の方向性	社会教育施設の老朽化対策を進め、必要な施設整備を行うとともに、公民館、図書館などの社会教育施設で行う事業を充実させる。

### Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
学習講座数	→	講座	2,100	1,969	1,674	2,100	2,100
社会教育施設利用者数	→	人	1,186,584	1,000,594	923,645	1,187,000	1,187,000

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標，↓：数値を下げていくことを目標とする指標，→：数値を維持することを目標とする指標)

### Step 4 市民ニーズの把握

新たに建設する施設については建設場所となる地域住民との意見交換の中から、施設に対する要望等把握する。また、講座や事業の内容について、利用者アンケートなどを通じて、市民が関心を持っている事柄や、地域課題を把握する。

### Step 5 役割分担分析

#### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	社会教育施設の整備及び管理運営を行う。	50
	国・県・ 他自治体	自治体が施設の維持・整備をしやすい財源支援制度を構築する。	10
	市民・ NPO	社会教育施設を利用し、新たに学んだ知識を生かして、講師やボランティアを行うなどして、施設事業に還元する。	30
	企業・ その他	指定管理者による社会教育施設の管理運営を行う。	10

## 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

盛岡市が主体的に、市内全域の社会教育施設の現状について十分に把握し、計画的かつ効果的に施設の利便性、安全性を確保していくためには、国や民間の力を活用しつつ、現状どおり主導的な役割を担うことが適当と考えるため。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 蕨川地区公民館については、地元を含めた除雪手法の検討と予算の確保。
- ・ 区界高原少年自然の家については、改修期間中の事業計画と人員配置の検討。
- ・ 小規模施設については、大規模改修に伴う複合化の機会などを捉えて、充実を図る。
- ・ 公民館講座の充実については、アンケート調査などを実施し、市民の学習傾向・嗜好などを把握する。
- ・ 講座内容を工夫して、広く多彩な内容のものを実施する。
- ・ 講座の実施時間帯や曜日を工夫するほか、同じ講座を複数回行う等、多くの市民が参加しやすいようにする。
- ・ 職員を対象とした研修を増やす等して、講座の企画を担当する職員のスキルや資質の底上げを図る。

### 2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済， B：平成29年度に着手（予定含む）， C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
蕨川地区公民館の除雪についての検討と予算の確保	工事スケジュールの説明の機会を捉え、地域住民と除雪の手法などについて協議する予定。	B
少年自然の家改修期間中の事業計画作成と人員配置の検討	改修期間中の日帰り事業や、施設の環境整備などの計画を作成し、人員配置も現状維持とした。	A
小規模施設の充実	飯岡地区公民館の複合化の協議において、現在の機能は維持できる見込みとなった。	A
アンケート調査の実施	講座終了後などにアンケートを実施し、講座内容へ反映している。	A
多くの市民が参加しやすいような講座の企画	勤労青年層などを対象に、料理教室などの人気の講座を夜に開催するなどの工夫をした。	A
職員のスキルや資質の向上	前年度のアンケートなどを参考に研修内容などの充実を図った。	A

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

## Step 7 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 見前南地区公民館を建設し、地区公民館として初めて指定管理者制度を導入した。
- ・ 中央公民館大規模改修事業に着手した。
- ・ 岩手で国体が開催されたことに伴い、地元の機運を高めるため、デモンストレーション競技の体験講座を実施した。

#### (2) 成果をあげた要因

- ・ 地区公民館のあり方を検討し、指定管理者にも十分に伝えることにより、民間の活力を生かしながら、地域の拠点となる施設を作ることができた。
- ・ 「盛岡市公共施設保有の最適化・長寿命化実施計画」に対応し、事業に着手した。
- ・ 当初対象は大人と想定していたが、小学生の参加が多く、これを受け入れたことから、参加者数が増え、講座自体も好評だった。

#### (3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

### 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 市立図書館の今後の方向性が未決定である。
- ・ 勤労青年層の公民館講座への参加が少ない。
- ・ 防災や環境問題など、学習機会の提供が社会的に要請されている必要課題についての講座の参加者が少ない。

#### (2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 今年度耐震診断を行いながら、市立図書館あり方を検討する必要がある。
- ・ 勤労青年層については、平日日中の講座の参加がほぼ見込めないことから、参加機会が限られている。
- ・ 必要課題については、すでに周知されている内容が多く、新鮮味がない。

#### (3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 平成29年度中に市立図書館の在り方を整理する。
- ・ 夜間と土日の日中という限られた時間に、勤労青年層が興味を持つ講座を企画する必要がある。
- ・ 現代社会に対応した新たな必要課題を取り上げた講座を企画する必要がある。

## Step 8 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

松園地区公民館活動事業の中のプレールーム委託事業

### 2 1で記載した事業についてその理由

実施内容が児童センター事業と同等であり、教育的効果より児童福祉的な効果の方が高いため。導入時から、児童センター機能とのことであった。

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

児童厚生員等の配置が必要で、事業内容が児童センターと同等であることから、子ども未来部子育てあんしん課の「施策2 子ども・子育て、若者への支援 2-1 保育環境の充実地域児童クラブ等運営事業」へ位置付けるべきと考える。

## Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 市立図書館のあり方を整理し、関係部局と今後の方向性について協議する。
- ・ 勤労青年層が興味を持つ講座がどのようなものであるか、ニーズを把握する。
- ・ 防災や環境などのほか、情報機器利用に係るモラル学習など、現代社会の課題に対応した講座を企画するよう努める。また、仮に受講者が少なくても、必要な講座と位置づけ、回数を減少させることなく、継続的に開催していく。